

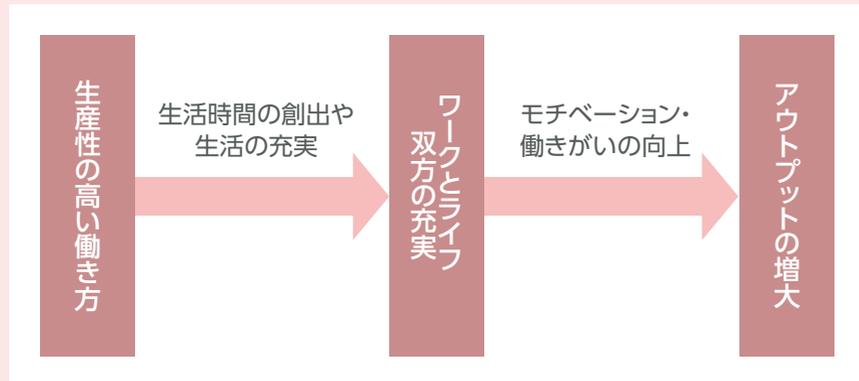
次号から
2回にわたり

「生産性向上」に向けた「私のひと工夫」を紹介していきます ～社会環境が変化する中で今、取り組んでいること～

次号から2回にわたり、社会環境が変化する中でも生産性の向上に向けて取り組まれている組合員のみなさんの「ひと工夫」を紹介していきます。それに先立ち今号では、「生産性の高い働き方」の重要性について、コロナ禍の影響も踏まえつつ、みなさんと一緒に理解を深めたいと思います。

■「生産性の高い働き方」はなぜ必要か？

「生産性の高い働き方」が実現できれば、生活時間の創出や生活の充実を通じてワークとライフ双方の充実につながり、ワークとライフ双方の充実がはかられば、モチベーション・働きがいの向上を通じて業績や利益などアウトプットの増大につながります。(下図)



このように、「生産性の高い働き方」は労使双方にメリットがあり、労使共通の課題といえることから、労使で課題認識を共有しながら取組みを進めていく必要があるのです。

■コロナ禍の中でも働き方を変革し生産性を高めるために

現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により社会環境が大きく変化し、生保産業においても働き方の変革が求められています。

すでに営業現場では、各社ともデジタル技術を活用した非対面(非接触)による新たな営業活動に取り組まれており、内勤職員が働く本社や支社でも、出勤とテレワークを併用しながら、リモートシステムを活用した会議や業務運営が行われています。このような中で、お客さまと直接お会いできないことへの不安や、テレワークにおけるマネジメント・労務管理の難しさなど、さまざまな課題を克服しながら働き方を変革していくことが求められています。

■生産性向上に向けては 組合員一人ひとりの「ひと工夫」が重要

働き方を変革し生産性を高めていくためには、労使で働く環境を整備することはもとより、組合員のみなさん一人ひとりが自らも「生産性向上」を意識した行動を心掛けることが重要です。

そこで、生保労連では次号から2回にわたり、コロナ禍の中で工夫されていることや、働き方の工夫で生活時間の充実につながっていること、生活時間の充実で生産性の高い働き方につながっていることなど、「生産性向上」に向けた組合員のみなさんの身近な「ひと工夫」を共有していきたいと考えています。

今回は、営業現場の取組みを紹介します。

